

令和5年度 第12回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和6年1月10日（水） 15時00分から16時40分まで

開催場所：A203-204会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、林企画部長、小倉リニア推進部長、牧島リニア駅周辺整備担当参事、橋本市民協働環境部長、田中ゼロカーボンシティ担当参事、林健康福祉部長、高山こども・子育て担当参事、清水産業経済部長、今産業経済部参事、井田建設部長、佐藤建設部参事、岡本危機管理部長、佐々木上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、秦野教育次長、筒井議会事務局次長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、澤柳企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・1月8日の出初式には多くの関係者に出席をいただいた。震災から1週間という時期での出初式だったが、非常に良い形でできたのではないかと考えている。
- ・地震対応について、1月2日から人的派遣に対応していただいた上下水道局と市立病院へは改めて感謝を申し上げたい。いずれも県下での呼びかけに対して、いち早く応えて第一陣として行っていただいた。
- ・これからも人的派遣の要請は各方面からあると思うが、飯田市役所としてはできる限りの対応をしたいと考えている。職員の皆さんには負担をかけるが、被災地のことを思って対応していただければと思っているので、よろしく願いたい。
- ・被災地支援の中で、珠洲市の中に避難所として飯田高校があることは、皆さん報道で目にされているのではないと思う。
- ・珠洲市と飯田の繋がりについては、先週の時点で教育委員会事務局から報告があり、飯田町や北方という地名や飯田高校、緑ヶ丘中学校、飯田小学校といった同じような地名や学校名があるとのこと。基本的には、被災地全体を支援するという立場だが、飯田という地名の繋がりもあり、被災状況も輪島市と並んで非常に厳しい状況を鑑みて、特に珠洲市について強く支援したいと考えている。
- ・次年度予算編成はこれから理事者査定に入る。1月17日から理事者査定が始まり、発表は2月20日となっている。部局等の長には最後詰めていただくことが出てくると思うが、令和6年度は、「結婚や子育てを支援する」「ゼロカーボンシティへの取組を推進する」という2つの大きな柱を中心に、取組を加速する1年にしたい。良い予算を作りたいと思っているので、よろしく願いたい。

＜副市長＞

- ・12月議会は、会期中の一般会計補正予算3本、部等設置条例の改正などもあり、忙しい議会であったが、乗り切ることができた。皆さんの努力に感謝する。予算編成の基本方針が出された後だったため、多くの面でいろいろな議論ができた委員会だった。
- ・能登半島地震を踏まえて、当市の災害対策本部を含めた対応をどうすればいいのか、自分のこととして考える癖をつけていく必要がある。

＜教育長＞

- ・7日に市内の16カ所で20歳の集いが行われ、1カ所に参加した。今年を対象者が1,140人、そのうち790人が参加し、参加者の割合は69.3%で、過去10年の中では一番多いと聞いている。
- ・飯田市の20歳の集いは地域の人たちや公民館が中心となり、20歳の集いの皆さんが主体となって実施しているところが特徴である。20歳の集いが、ふるさとに帰ってきたいと思えるような会になると良いと思いがら出席をさせていただいた。

2 協議事項

(1) コロナ禍における市が実施した業務への影響と対応の振り返りについて

◇趣旨

- ・コロナ禍における市の対応や、業務への影響を後世に残すため、振り返りを行い、記録として残しておく

たいとするもの。

◇協議内容

(市長)

- ・東日本大震災の各市町村の報告書や手記を読むことで疑似体験をし、今後の当市の対応を考えるのに非常に役に立っている。
- ・今回は未来の担当者へ向けての項目があるが、今回の私たちの経験や苦労を未来の人のためにぜひ残し、次につなげる意味で重要なことである。作成は大変だが、ここは踏ん張って、記録を残しておきたい。職員の皆さんの協力をお願いしたい。
- ・北九州市の対応記録を見ると、最初に感染状況の記載があるが、初動の時期は、国としての方針が固まらず、どうしたらいいのかわからないままやっていた時期があったと思う。後から読んで参考になるのは、そうした初動の部分であると思う。
- ・未来の人が参考になるということもあるが、職務として市民の皆さんのために対応した記録としても残しておくべきと考える。章立てはこの通りと思うが、初期の頃で大変だった話も何らかの形で残せると良い。
- ・異動や退職をしている人もいると思うが、そういう方にもぜひご協力いただきたい。大変だった話と未来の担当者へのメッセージを書いてもらえるようお願いをさせていただきたい。
- ・書き下ろしでなくても良い。また、現に残っている記録の切り貼りでも良く、可能な限り労力は最小限で良いのをお願いしたい。読み物として充実するというよりは記録というスタンスで書いてもらえれば良いと考えている。

(こども・子育て担当参事)

- ・第8章に「4 医療・福祉施設への支援」とあるが、ボリュームとしては1章分いる。当市では、特に介護施設や重度障がい者の施設について、独特の広域的な連携体制を医師会と構築した。各施設の皆さんが現場でどのようにゾーン分けをしてやり切っているか等の苦労は後世に残したい。第11章と第12章の間に入れるのはどうか。
- ・イベント対応については、相当に悩みが多かった。お練りや成人式など、結果について保健所の分析が公表されている。このことについても章があるのではないかと。まだ流動的なのであれば、作っていく中で、組立てが必要なのではないかと。

(ゼロカーボンシティ担当参事)

- ・当時企画課長として、内部の政策決定、進め方、まとめていく手法は相当苦しかった。内部向けの生みの苦しみもあったと思うが、その辺りをどうするか。市民向けに残すとすると書かなくても良いような気もするが、職員に向けては残した方が良いこともあると思うがどうか。

(市長)

- ・基本的には職員向けが良い。個人の批判や後世の人が見たときに話が特定されるようなものは良くないが、特定の誰かを後から責めるという趣旨ではないとすれば、事実や担当者の思いを書くことは必要なのではないかと。その時に悩みながらやったことや、やっておけば良かったという話は残すべきだと思う。
- ・市民向けに読み物を書くわけではなく、市役所としての対応記録として、後世に読んだ人が参考になるという趣旨であるため、可能な限り残した方が良い。誰か個人的な非難を受ける人がいないように配慮が必要だが、できるだけリアルな形で残してあげた方が後からの人のためになる。

◇協議結果

- ・特定の個人が非難を受けることがないように配慮をした上で、職員向けを前提として、可能な限りリアルな形で記録として残すこと。

(2) 令和6年能登半島地震への支援について

◇趣旨

- ・令和6年能登半島地震への支援について確認する。

◇協議内容

(市長)

- ・職員派遣については、可能な限り対応する。経験者の派遣希望に対しては、現在の所属職員だけでなく、かつての経験者にもお願いする可能性もあると思う。全部局が関わることなので、ご協力をお願いしたい。上下水道局や市立病院は別のラインで依頼が来ることが想定されるため、それ以外の部局を中心になると思うが、日頃の業務の上に長期間の派遣となり、派遣する職員も、その職員を出す職場も大変だがご協力

- をお願いしたい。
(会計管理者)
- ・チームながので派遣することになる6名は当市だけなのか。
(危機管理課長)
 - ・飯田下伊那である。
(危機管理部長)
 - ・経験者を含めての人選となるため、人事課と相談しながら進めていきたい。
(上下水道局長)
 - ・下水道で約1カ月継続して調査業務に派遣する。給水の支援要請が来ているため、4名ほど派遣したいと思うが、水道局だけの職員では足りないため、声をかけさせていただいた際にはご協力をお願いしたい。
(市長)
 - ・下水の調査を1カ月とは、2人体制を継続して回すということか。
(上下水道局長)
 - ・そのとおり。6日交代くらいで1人が重複するようにやっている。1月27日まで継続して行う。
(市長)
 - ・技師でないといけないのか。
(上下水道局長)
 - ・そのとおり。
(建設部長)
 - ・県から危険家屋の判定の派遣について今後依頼がある。現在長野市と松本市が派遣している。この業務に従事できるのは、特定行政庁の建築の職員に限られる。第6陣まで日程が決まっている。恐らく当市にもどこかのタイミングで依頼があるものと思う。
(市長)
 - ・危機管理部と総務部で全体の職員の派遣の様子を把握すること。
(総務部長)
 - ・既に派遣している部局もあるが、人事課へ相談をしていただきたい。今お話を受けたようなこともまとめて聞く必要がある。話は必ず人事課へあげていただきたい。

◇協議結果

- ・令和6年能登半島地震に関する職員派遣に関しては、可能な限り対応することとし、職員の派遣の人選に関しては、全庁的に協力すること。
- ・職員の派遣については、必ず人事課へ相談すること。

(3) 新文化会館基本構想（案）

◇趣旨

- ・新文化会館基本構想（案）について、確認する。

◇協議内容

- (危機管理部長)
- ・「施設整備の方向性」に、ユニバーサルデザインに配慮することや環境配慮型の施設とすることが記載されているが、現状、文化会館は応急避難施設になっている状況もある中で、防災の視点も書き加えることを検討いただきたい。
(市長)
 - ・基本理念に「日常的に集って気軽に交流できる」や「非日常の舞台」とある。これは両方の面を併せ持った文化会館にするというプロローグがあり、基本方針と想定する事業としてソフトだけ出てくる。ハードは全部基本計画に送っているという意図だと思うが、日常的に交流する場と本格的な舞台を両方備えた施設を作るといったイメージを持ちながら基本方針が作られているということで良いか。
(文化会館長)
 - ・本編12ページにぼかして書いてある。
(市長)
 - ・本編にはあるが、概要版には書いていないということか。
(企画部長)

- ・概要版の下部に少し記載がある。
(産業経済部長)
- ・人形劇場も概念に含むのか。
(文化会館長)
- ・直接的に表現していないが、施設としてはトータルで見えていく必要があるので、含めて考えている。

3 報告事項

(1) 議会日程の最適化と委員会代表質問について

◇趣旨

- ・議会日程の最適化と委員会代表質問について報告する。

◇意見

(産業経済部参事)

- ・一般質問の通告が開会の前にあり、一般質問の後に予算決算委員会の前期全体会や議案の質疑になる。一般質問を議案や予算に絡めて質問する場面があったと思うが、先に一般質問があり、議案の説明は後になっているため、一般質問では議案や予算のことには触れないということで良いか。

(議会事務局次長)

- ・議案に関することは議案の審査の場であることが大原則である点は共有している。一方で、議員が一般質問で議案に係る質問をしていることも承知している。議会事務局でも改めて確認を取る。議案に関する部分は、議案まとめができた段階で示し、質問が議案審査にはならないようにしたいと思っている。
- ・特に3月議会では、予算編成に関わる部分が一般質問で聞かれることがある。議案に関することは議案の審査の場であるように進めていきたい。
- ・繰り返しになるが、そもそも議会としたら、議案に関することは一般質問にしないというのが原則であるが、俯瞰的な質問をされると、それは議案の審査に直接関係ないと認めざるを得ない場合もあるので、御承知おきいただきたい。

(市長)

- ・飯田市議会は他の議会に比べると、かなり議案の事前審査に当たらないように、厳格にやっていると感じている。

(産業経済部長)

- ・代表質問等、年4回の日程はこの原則でいくのか。

(議会事務局次長)

- ・原則そのように想定している。

(産業経済部長)

- ・11月は異常に忙しい時期であり、配慮をお願いしたい。

(市長)

- ・日程の問題というよりは内容の問題だが、事実確認や数字を聞くことについて、手元に数字があるのに議場で聞かないように徹底してほしい。

(議会事務局次長)

- ・通告があった時には、できるだけ事務局でもお伝えしている。数字があればわざわざ聞かずに、次の質問の議論に入っていった方が良いのではないかと対応している。議員は、例えばケーブルテレビが中継している時に、市民への分かりやすさを強調されている。できる対応はしているということでご理解いただきたい。

(市長)

- ・過去に最初から最後まで事実確認をする質問があったが、市民への分かりやすさという話も、事前に自分で調べた数字に基づいて質問するという組立てであるべきである。

(議会事務局次長)

- ・議会内部でも時期だけの問題ではない点は十分共有している。議員個人の資質を高めて質疑をしていくことや必要な議員研修も議会内部で新年度に向けてやっていくことは確認されている。

(企画部長)

- ・聞き取りから質問まで長くて3週間空くため、社会的な変化はあるかもしれないが、質問自体がぶれるのは厳しい状況もあるため、対応をお願いしたい。
- ・執行機関側は、聞き取りから勉強会まで時間ができる。聞き取りと答弁作成には時間的な余裕がある。委員会の日程が少し後になるため、委員会準備にも少し時間がとれる。

(ゼロカーボンシティ推進担当参事)

- ・ 常任委員会の内容はいろいろな会派が集まっているため、必ずしも意見が一致しない状態で決を採る。委員会質問は委員長がやるのか。誰がどういう立ち位置で質疑するのか。
(議会事務局次長)
- ・ 委員会質問の内容については、原則委員会で全会一致になったものだけとしている。一問一答のやり取りまで全てを全会一致でやることは難しいところもあるが、聞く項目に関しては、全会一致で、確認されたものである。質問者に関しては、委員長がする場合もあれば、ベテラン議員がされる場合もある。その質問の内容に長けた議員におまかせするということもある。そこは委員会での判断である。一致した内容でしか質問をしないという確認は取れている。

(2) まちづくり委員会等の役員の負担（感）軽減の取組等について

◇趣旨

- ・ まちづくり委員会等の役員の負担（感）軽減の取組等について報告する。

4 令和5年飯田市議会第4回定例会の反省について

(企画部長)

- ・ 議案の初日や中日での追加提案があり、忙しい議会であったが、代表質問も一問一答の時間が取れなかった議員はそれほどいなかったため、バランス的には良かった。
(ゼロカーボンシティ推進担当参事)
- ・ 総務委員会の中で、議員間討議が行われた。ルール化が徹底されていなかったため、執行機関側の対応に苦慮した。また、議員間討議の中で動議が出されるなど、運用がどのような対応になるのか見えない点があった。特に事業内容に関する動議とそれに伴う予算があったが、事業に関する修正の動議が出るというイレギュラーな動きがあった。組替え動議がある時の運用はどうなっているのか。

(議会事務局次長)

- ・ 今回はイレギュラーだった。最後の1万円の交付金の補正のところ、予算決算委員会の全体会では、事務費が高いという話だった。議員の中から、それを組替えて、全く別のところへ予算を使った方が良いのではないかと案が出されており、それに関して委員の中で自由討議を行った。修正に関しては、修正案を持って動議にかけるのが原則であるため、今回は修正案の動議には当たらない。修正案自体は形式的にはそれが可決されれば、そのまま議案に溶け込んで、執行機関側に執行しなさいということになるため、そういう様式でないといけませんが、今回はその様式にもなっていない。そもそも予算決算は、委員会で討論採決を行うので、修正の動議や組替えの動議を出すにしても、事務局とすると、それを審査するのは全体会の場しかない。分科会の審査の中では、例えば、議員間討議をして、予算の考え方を議員で共有する場合のみ。
- ・ 今回は、議員から個別の案が出て、その案に対する議論になってしまったため、修正案を扱ったような感じになってしまった。本当に動議を扱う場合は内部会議の準備会の場で案を出す意思確認をした上で、審査のやり方を組立てている。今回はその場でそういう話がなくて、抜き打ちで出て来た。修正案の体をなしておらず、考え方の議論を自由討論したという捉えになっている。執行機関の皆さんからのご指摘は受け止める。

(市長)

- ・ そのことは議員間でも共有されているのか。

(議会事務局次長)

- ・ その後の予算決算の準備会の中で改めて動議を出す時には、事前に準備会で報告だけは受けて、どういう審査をするかを確認するようにした。今後、動議が出る時には事前に準備会で確認するようになっている。

(企画部長)

- ・ 今回ドローンを使った活用について答弁があり、危機管理部が飯田市にドローンを持って活用する例はないと答弁をしたが、実は他部署でドローンを持っていて活用していた。こうしたことがないように、答弁に関して勉強会で確認しているため、発言をし、答弁の修正をしていただきたい。他の部局の答弁に関してもしっかりと議論できるようにしていただきたい。

5 その他、連絡事項

(危機管理部長)

- ・ 1月18日に予定していた国民保護訓練は今年度は中止となったが、午後1時15分から3時までの間を防災訓練の振り返りの時間としたい。スケジュールの確保をお願いする。

6 閉会